【挑戦：情報活用能力の育成②】文字入力（中学校編）

岡山県教育庁義務教育課

中学校学習指導要領では、「キーボード入力」については特筆されていませんが、小学校学習指導要領では、「児童がコンピュータで文字を入力するなどの学習の基盤として必要となる情報手段の基本的な操作を習得するための学習活動を計画的に実施すること」と示されています。このことから、キーボード入力は、小学校で身に付けておく基本的な能力であると考えられ、中学校においても **GIGA スクール構想元年の今年度から数年間は、キーボード入力の重点的な指導が必要**です。

（1）生徒の実態

今年度７月、教育情報化推進室が実施した県立高等学校１年生の生徒（今年度１人１台端末を導入していない学校を除く）を対象としたアンケートで、キーボード入力に関わる質問があり、次のような結果が得られました。

質問：キーボード入力はスムーズに行うことができますか。			
できる	ややできる	あまりできない	できない
34.0 ％	43.1 ％	19.2 ％	3.7 ％

１人１台端末が整備されて間もない調査とはいえ、高校１年の**全体の 66%（表の青色部分）がキーボード入力に何らかの不安を抱えている**ことが分かります。

各中学校の生徒の実態はどうでしょうか？訪問した複数の中学生に「キーボード入力で困っていない？」と質問すると、「“でゅ”などの文字を打つときに分からなくなる。」「入力スピードが遅い。」「指使いが正しくできない。」などの声が聞かれました。「困ったことはどうしている？」と聞くと、「分からないときは友達に聞く。」「寿司打など、インターネットのタイピングゲームで速く打てるように練習している。」などの答えがあり、生徒は課題を感じながらもどうにか解消しようと試みていることがうかがえました。

（2）取材協力校【倉敷市立玉島東中学校】の取組

倉敷市立玉島東中学校では、端末導入時に情報担当の教員が端末の操作等の統一した指導を全クラスで行うことによって、円滑なスタートを切りました。

２年社会科

２年理科

特別支援学級英語

キーボード入力に着目して授業を参観すると、２年社会科（地理）では調べたことをスライドにまとめる活動、２年理科では GoogleForms を使った元素記号の小テスト、特別支援学級では英文の入力などの活動において、キーボード入力の技能が発揮されていました。生徒は英文の入力を経験すると、Chromebook のキーボードの表示が小文字であるメリットについても気付いたようです。

このようにキーボード入力は日常の授業の中で欠かせない技能であることから、情報担当の教員が中心になり、１・２年生を対象として、タイピング練習サイト「マナビジョン」を活用したテストにも取り組んでいます。テストを実施すると、生徒がキーボード入力のスピードなどを意識するようになったようです。今後は、さらにスムーズなキーボード入力を目指して、「ホームポジション」を意識させた指導も行っていく予定です。

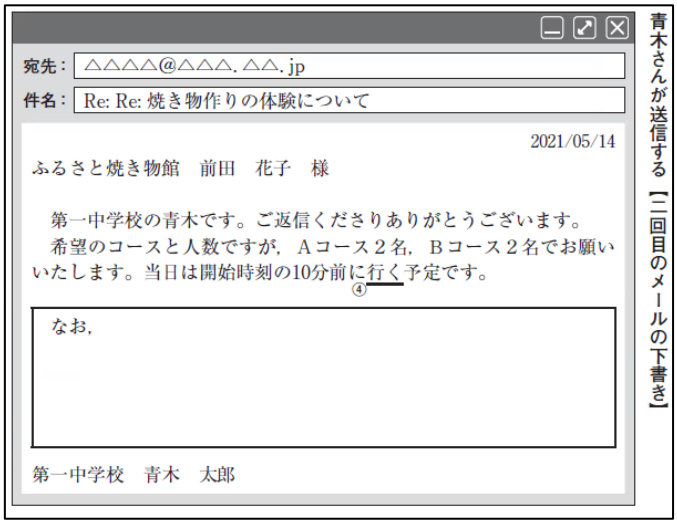
（３）全国学力・学習状況調査の「**CBT（Computer Based Testing）化**」から具体的な目標を構想

GIGA スクール構想の推進や PISA 等の国際学力調査の CBT による実施の流れなどを踏まえ、全国学力・学習状況調査がコンピュータを活用して実施することが予定されています。児童生徒質問紙調査については、令和６年度を目途にオンラインによる回答方式が全面導入され、教科調査については、令和７年度（現在の小学校５年生が中学校３年生時）以降、中学校から先行し、導入することが発表されています。併せて、**CBT 化された学力調査には、引き続き記述式問題が出題**されることも発表されています。

「教育の情報化に関する手引-追補版-」（文部科学省　令和２年６月）では、中学校修了段階の基本的な操作等の例として、「キーボードなどによる十分な速さで正確な文字の入力」と示されていますが、**「十分な速さ」とはどれくらいなのか、各校で具体的に目標を設定することが必要**です。

文字入力には、与えられた文章を入力する「視写入力」と、自分で考えをまとめながら文章を入力する「思考入力」があり、タイピング練習サイトなどで測ることができるのは、「視写入力」についてです。これについては、「教科等における ICT 活用事例集 STAGE3 編（第一版）」（岡山県教育庁義務教育課　令和３年６月）において、小学校６年生の目標例として、「タッチタイピングを意識して、１分間で漢字変換を含み３０文字を入力できる」と示しています。今年度末発行予定の第二版では、中学校の目標例も示したいと考えています。

また、今後の参考として、令和３年度の全国学力・学習調査 中学校国語の調査問題から、「思考入力の十分な速さ」を検討します。



上記のように、全国調査には「総合的な学習の時間に施設の担当者の方とメールでやり取りする際に、確認事項を押さえながら相手に失礼のないように書く」という内容の出題がありました。学習活動においても、手紙のやりとりではなく、メールを活用する場面があります。まさに**キーボード入力の技能が生きて働く学習場面**です。

> （なお、）事前に教えていただきたいことがあります。当日の持ち物と服装について何か気を付けることはありますか。また、体験している様子を写真撮影することはできますか。
> 今回の学習を通して多くのことを学びたいと思っています。よろしくお願いいたします。

示された正答例は、「１１６字（漢字変換を含む）」でした。メールを作成する際は、考えをまとめる時間などに個人差がありますが、先生方は生徒がこのような学習場面において、**「思考入力の十分な速さ」はどの程度**だと考えるでしょうか。１人１台端末を文房具のように使いこなすという GIGA スクール構想の理想の姿を具体化するためには、多くの学習場面で必要となる「思考入力」について一考する必要があると考えられます。

（４）今回のまとめ

中学校では、教育課程の中でキーボード入力をじっくり練習する時間の確保が難しいため、生徒に具体的な目標を示し、情報活用能力の育成の一つとしてキーボード入力の技能を高める手立てを体系的に推進してみてください。各校の実態に応じて、長期休業等など課外の時間を活用することも考えられます。